

議 会 だ よ り

まるもり

Miyagi Prefecture
Marumori Town Assembly
News

第 268 号



2024. AUG
令和 6 年 8 月 1 日

発行 宮城県丸森町議会
編集 議会広報常任委員会



町外からの参拝者も訪れた7月7日の七夕神社

(表紙のことは …… 18ページ)

6 月 議 会

- 議会懇談会～議会改革を求める声 多数～ … 2 ページ
- 子育て世代の定住促進へ …… 4 ページ
- 一般質問 9 人の議員が町政を問う …… 6 ページ
- 議会の要望に町長が回答しました …… 16 ページ



議会懇談会

議会改革を
求める声多数

議会懇談会を開催

議会懇談会は、議会の報告及び町民と議員が意見交換を行う大切な場として、年2回行っており、今回で27回目の開催となりました。5月23日・24日・27日の3日間、議員が3班に分かれて、各地区まちづくりセ

ンターと羽出庭農村集落多目的センターの9会場で行いました。

懇談会では、昨年5月の懇談会で出された意見等への対応状況、令和6年度予算の概要、予算に係る要望事項の内容を報告し、出席者からは貴重な意見等が出されました。

主な意見・要望

議会に対する意見・要望

【議会改革】
議会の開催の仕方、定数の考え方等基準を明確にして、取り組んでほしい。また、町民の意見も反映させてほしい。

【議会懇談会後の対応】

議会懇談会が出た質問に対して、できるだけ早くしっかりと回答をしてほしい。

【政務活動費の公開】

政務活動費がどのように使われているのか公開してほしい。

議会懇談会出席者状況

開催日	地区(人数)
5月23日(木)	大張(29人)
	小斎(18人)
	筆甫(10人)
5月24日(金)	大内(10人)
	耕野(8人)
	丸森(18人)
5月27日(月)	羽出庭(19人)
	館矢間(30人)
	金山(16人)
出席者総数	3日間 合計 158人

町政一般に対する意見・要望

【病害虫対策】
管理できていない旧小中学校のプールに発生するボウフラなど、病害虫対策をしてほしい。

【あし丸くん利便性向上】
あし丸くんの制度が変わり自宅まで来てくれなくなった。利便性向上に向けた対策はどう考えているか。

【防災ステーション整備】

河川防災ステーションの整備が進められているが、町民の意見も取り入れながら、町活性化につなげてほしい。

また、道の駅のようにはできないか。

【移住促進と空き室整備】

空き家リフォーム補助金の大幅な増額と、町営住宅などの空き室の維持管理をしてほしい。

【結婚対策】

子育てというが、結婚しない人が多い。町内で結婚して世帯を持つとなった夫婦に100万円くらい出してはどうか。

【医療対策】

近隣市町と協力提携して産婦人科や小児科等を含めた医療連携を進めてほしい。

意見・要望への対応

懇談会での意見・要望は議会懇談会実行委員会で、その内容を整理しました。議会自ら取り組むべき事項は、議会運営委員会や議会内で対応を検討し、町に對する事項は、総務民生常任委員会と産建教育常任委員会で対応を検討します。



金山まちづくりセンター



羽出庭農村集落多目的センター

9月末までに対応を完了した内容については、一部抜粋して議会だより269号に掲載予定です。その後も、対応が完了した意見・要望についての結果は、随時、議会だよりで報告していきます。なお、議会だよりに掲載しきれなかった内容は、ホームページに掲載予定です。



館矢間まちづくりセンター

子育て世代の定住促進へ

6月議会のあらまし

6月議会定例会は、6月13日から17日まで開催しました。

主な議決内容

- ◆報告 8件
- (一般会計繰越明許費※ほか)
- ◆承認 5件
- (町税条例の一部改正ほか)
- ◆条例制定 1件
- (上滝地区宅地分譲地の特別譲渡に関する条例)
- ◆条例の一部改正 3件
- (印鑑条例の一部改正ほか)
- ◆財産の無償貸付 1件
- ◆財産の取得 1件
- ◆一般会計他1会計の補正予算

審議の結果、町長提案の議案等を、すべて原案どおり可決しました。一般質問は9人の議員が行い、自らの考えを交え町長や教育長と活発な議論を行いました。

※繰越明許費とは
何らかの事情でその年度内に支出を終了できない経費を、翌年度1年間に限り繰越して使用することができるとのこと。

議決結果の一覧はホームページに掲載しています。



条例制定

上滝地区宅地分譲地を特別価格で販売

子育て世代の定住を促進するため、丸森町合併70周年を記念し、町が所有するグリーンステージ上滝2区画を、1区画あたり70万円



合併70周年記念価格で販売される上滝地区宅地分譲地

で販売できるよう条例を制定しました。販売の対象者は、申請者または配偶者が45歳未満で夫婦世帯・中学生以下の子育て世帯・新規転入世帯等です。詳細は令和6年8月以降に町の広報等でお知らせし、10月から11月に募集（応募者複数の場合は12月に抽選）を行う予定です。

主な補正予算

コロナワクチン接種に3061万円

新型コロナウイルスワクチン接種のための予算3061万円を承認しました。予防接種は令和6年秋頃から始まり、生後6か月から高校3年生までと65歳以上を対象に費用の一部を助成します。

大型サル檻の移設に72万円

林道鈴宇線沿いの国有林に設置している大型サル檻を、青葉南地区へ移設するための予算72万円を承認しました。サル檻は令和元年度に設置され、5年間で58頭捕獲しており、移設先でも捕獲が期待されます。

規約の一部変更

後期高齢者医療は紙の保険証が廃止

マイナンバー法の改正に伴い、宮城県後期高齢者医療広域連合規約の一部を変更しました。

現行の紙の保険証は令和6年12月2日以降、発行されなくなり、(内容に変更がない限り、有効期限の令和7年7月31日まで使用できます。)

マイナ保険証を登録していない場合は、保険証と同様に病院等で使用できる資格確認書を交付します。

審議の経過

議案の審議では、質疑・討論の後に起立採決を行い、賛成11・反対1となり、本議案を可決しました。

反対討論

山本明徳議員

紙の保険証は存続せよ

医療情報という個人情報が入り、一元管理されることへの危惧がある。また、誤作動などにより、資格確認ができず全額請求される等トラブルが発生している。高齢者が安心して医療を受けられるためにも、従来の保険証を存続させるか、資格確認書を全員に発行するべきと考え、反対する。

賛成討論

菊池修一議員

教訓を生かし進めるべき

国の制度はこれまでも最初から完全ではなく、様々な教訓を生かしリスクを排除しながら、国民の生命や財産を守ってきた。

後期高齢者医療制度も様々な問題を抱えながら、やっと安定して実施されるよう進んできたことを踏まえれば、今回の改正も同様と考え、賛成する。

財産の取得

小型消防ポンプ付積載車購入2613万円

小型消防ポンプ付積載車の経年による定期更新として、新たに普通積載車を1台、軽積載車を2台購入する契約を承認しました。普通積載車は筆甫分団1班、軽積載車は金山分団4班と大張分団2班に配備され、消火活動等に活用されます。



令和7年2月に更新予定の筆甫分団1班小型消防ポンプ付普通積載車

町有財産を無償貸付

引き続きATMを設置

貸付する財産

旧仙台銀行丸森支店(丸森町字町西29番地2)

貸付の相手方

株式会社 仙台銀行

代表取締役頭取 鈴木 隆

貸付の理由

利用者の利便性確保のため、引き続きATMを設置している施設の一部を無償で貸し付けます。(電気代等は仙台銀行が負担します。)

貸付の期間

令和6年8月9日から11年8月8日まで(5年間)



設置が継続されるATM

工事請負契約の締結

丸森小学校体育館の長寿命化工事が始まる

築44年が経過した、丸森小学校体育館の長寿命化工事を行います。

屋根や床、渡り廊下へのスロープ等の改修や多目的トイレの設置で、安全面と機能面の改善を図ります。

契約業者

株式会社 春日部組

契約金額

1億5400万円

工期

令和6年6月18日から7年1月31日まで



工事が始まった丸森小体育館



わたなべ まさみ 議員
渡辺 政巳



一般質問動画

天水舎の営業再開を

町長 休憩スペース等活用を協議

観光について町長に問う。
問①不動尊公園エリアは、「水とみどりの輝くまち」丸森町のシンボリックエリアである。
3年も営業していない、開かずの天水舎レストランは観光客や来遊者、町にとって大きな損失となっていると考える。一刻も早く営業を再開すべきではないか。

観光について町長に問う。与える可能性がある。現在は無料の休憩スペースなど日常的に利用できる環境を整えることを目指し、指定管理者と協議している。
問②丸森町を知らない人、道案内をするのが大変という声をよく聞く。観光客目線で観光地案内板を設置すべきではないか。
答②観光客が迷うことのないように、情報発信している。今後は案内看板に加え、観光デジタルの充実化を図りたいと考えている。
問③国道113号と、国道6号の交差点に丸森の地名が入っていたが、なぜ消えてしまったのか。
答③実態を確認していないが、国道に接する看板の名称は国との協議が必要と捉えている。

丸森町が表示されるように頑張っていく。



町民が再開を期待している天水舎

問④本町のキャッチフレーズにある、水とみどりの輝くまちのように水とみどりを活かし、イメージアップを図り観光客を増加させるように景観スポットを整備すべきではないか。

答④不動尊公園キャンプ場は、県との協議により場内にあるつり橋の修繕を令和6年度内に完了する予定としているほか、景観の保全と支障木の伐採など適切な管理を行っていく。

一般質問

町政を問う

一般質問とは、町に対して事務の執行状況や将来に向けての考えをたずねるものです。今回は9人の議員が質問しました。

ページ	議員	質問事項と回答
7	渡辺 政巳	●天水舎の営業再開を 町長 休憩スペース等活用を協議
8	鈴木 美智子	●町を消滅させない施策は 町長 若者定着と出生率向上を図る
9	中津川 かおり	●教育環境の見直しは 教育長 必要に応じて改善する
10	山本 明德	●子どもの熱中症対策は 町長 強化と徹底を図る
11	大槻 孝雄	●消滅可能性からの脱却は 町長 新たな対策を検討する
12	船山 俊一	●事業承継支援の強化を 町長 支援の体制強化に取り組む
13	金森 裕之	●高齢者のより良い生活を 町長 安心する生活の実現を進める
14	大槻 正儀	●農産加工品で就労場拡大を 町長 6次化を更に推進する
15	板橋 勇	●消滅可能性町の対応策は 町長 総合戦略策定の中で対応





なかつがわ
中津川かおり 議員



一般質問動画

教育環境の見直しは

教育長 必要に応じて改善する

若い世代の町外流出を防ぐためにも、生活のハード面だけでなくソフト面も整備が必要である。子育て世帯が重視するのは、子どもの教育環境である。

また、本町は子育て支援日本一を掲げているが、保護者や教育に係る全ての方が安心できる教育環境の整備と見直しが必要であると考える、教育長に問う。

問① 不登校児童・生徒と保護者へ学習機会の提供や教育の共有としてタブレットを使用したオンライン授業導入を進めてはどうか。

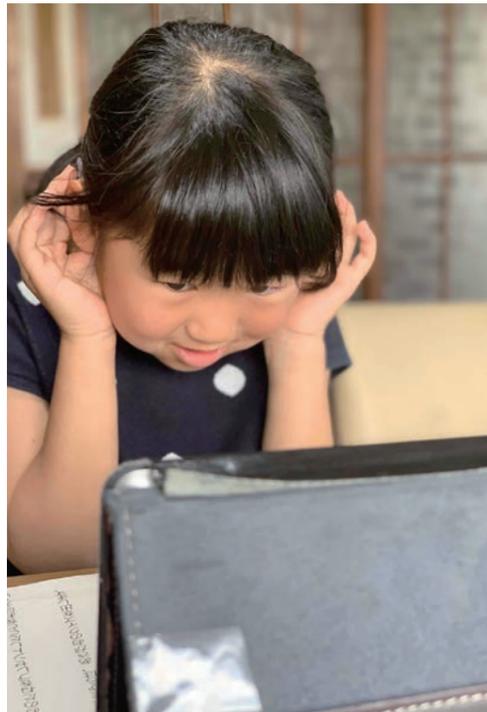
答① 不登校の児童生徒にとって、学習面の遅れを解消するうえで有効であると考える、本人が希望する場合は積極的に実施する。

問② 各地区でのスクールバスの停留所等は、毎年見直すべきとの意見がある。特に上滝地区の子どもたちもスクールバスの利用が可能とならないか。

答② 通学時間や通学経路における特殊な事情など、すべての要望に対応すること

問③ 丸森小学校スクールバスは、PTAが実施したアンケートによると、バスプールもしくは乗降場だけでも町西仮設住宅跡地に移設希望が80%以上だった。移設を検討すべきではないか。

答③ バスプールを移設した場合は、スクールバスが通



コロナ禍で学級閉鎖中にタブレットを使いオンライン授業に取り組む児童

町を消滅させない施策は

町長 若者定着と出生率向上を図る

令和7年度からスタートする第六次町総合計画策定の視点について町長に問う。

問① 民間団体の人口戦略会議で、本町も2020年から30年間で消滅可能性自治体と指摘されたことをどう感じているのか。

また、脱却するための施策をどう考えているか。

答① 消滅という言葉は非常に衝撃的で、全国町村会でも住民の不安や諦め、分断をもたらしかねず極めて遺憾だとしており、本町としても人口減少に歯止めがかからない状況をその表現でひとくくりにされることを

苦々しく感じている。策定中の第六次町総合計画でも最大の課題は人口減少であり、その要因である若者世代の流出対策及び出生率の向上対策への取り組みを継続し、新たな施策も検討する。

問② 私は本町を消滅させない強い思いで、介護や子育て学校教育等の改善を提言して町政に反映してきたが、人口減少に歯止めがかからない状況である。本町を消滅させないために、生活機能を町中心部に

は難しい。現在の運営方法の継続を基準とし、必要に応じて改善に努める。

問③ 丸森小学校スクールバスは、PTAが実施したアンケートによると、バスプールもしくは乗降場だけでも町西仮設住宅跡地に移設希望が80%以上だった。移設を検討すべきではないか。

答③ 丸森小学校スクールバスは、PTAが実施したアンケートによると、バスプールもしくは乗降場だけでも町西仮設住宅跡地に移設希望が80%以上だった。移設を検討すべきではないか。

学時間帯にこの道路に入っていくことで、新たな渋滞の発生や、徒歩と自転車通学の児童の安全確保が懸念される。

午前7時30分から8時30分は自転車及び歩行者専用道路となり、指定車両以外はバスプール付近から町道内に入って行けないこと等を考慮すると町西仮設住宅跡地への移設は難しく、現在の乗降場が適切であると



すずきみちこ
鈴木美智子 議員



一般質問動画



みんなでつろう みんなの町を (第六次町総合計画策定ワークショップ)

集約するコンパクトシティに向けた取り組みが必要と思うがどうか。

答② 本町は町域が広く、集落も点在しており、道路等のインフラや住居等の機能の集約は効率化や利便性向上の面ではメリットがある。しかし、住み慣れた地域に愛着を持っている方も多く、合ったまちづくりの検討を町民の声を聞きながら進める。

問③ 町公式キャラクターは町職員が考え民意が反映されなかった。町民と共に作るまちとは、どんなまちなのか。

答③ 第六次町総合計画策定作業では中学3年生と商工会青年部、一般町民公募や地域と関係団体との対話を重ねながら町民と共により良いまちづくりを目指す。



おおつき たかお 大槻 孝雄 議員



一般質問動画

消滅可能性からの脱却は

町長 新たな対策を検討する

議会懇談会において消滅可能性自治体、県内ワースト1の人口減少率、限界集落など将来に対する不安の意見が出された。復旧復興が最終年度を迎える中、人口減少という大きな危機を町民総力戦で克服すべきと考え町長に問う。

問① 町民はじめ職員、議員、有識者による人口減少対策室を設置してはどうか。

答① 新たな総合計画においても人口減少は重要な施策でもある。現在の体制のもとで新たな対策についても検討していく。

問② 利便性から町外に移住する町民も多い。転出者を抑制するためにも、住宅取得や家賃などの費用補助の拡大を行ってはどうか。

答② 仙南地域内でも補助額としては最高額である。事業が移住・定住につながるよう改善に努めていく。

問③ 婚活を応援するため4事業者と連携しているが、あまり効果が出ていないようだ。実態と周知は。

答③ 利用者は令和4年度1件、令和5年度が2件と少ない状況にある。今後はLINEアプリを取り入れ若者に周知を図る。

問④ 令和6年度は第六次町総合計画策定の年で、消滅可能性自治体になるか、踏みとどまるか、大変重要な年と考える。計画策定がコンサル頼みになっていないか、町民若者の声をどのように反映させていくのか。

子どもの熱中症対策は

町長 強化と徹底を図る

気象庁の予報によれば、今年の夏も猛暑が続く、昨年より暑い日が多くなる可能性が高いとのことである。近年、全国的に学校管理下での熱中症が多発しており、死亡事故も起きている。安全が最優先される学校や保育施設等での熱中症対策について町長と教育長に問う。

問① 熱中症リスクをどう把握し、どのような対策をとっているのか。

答① 環境省情報サイトで地域の熱中症情報を得るとともに、保育室と放課後児童クラブに暑さ指数測定器等



やまもと あきのり 山本 明德 議員



一般質問動画

を設置し、熱中症の危険度を職員で共有して、保育や学習活動を行っている。熱中症警戒アラートが発表された場合には、屋外や体育館での活動は中止して

こまめな水分補給や体調管理を図っている。また、各施設で、熱中症対策を危機管理マニュアルに位置付け、対策の強化と徹底を図る。



外遊びでは帽子をかぶって熱中症予防 (館矢間小)

問② 県外で夏季休業中に部活後の下校途中に熱中症による死亡事故が起きている。熱中症対策として、夏季休業中の部活動の際に遠距離通学者のスクールバスへの乗車はできないか。

答② 教育長 中学校においては、休日の部活動実施状況に合わせてスクールバスを運行している。各車両の乗車定員は決まっており、乗車人数を把握するうえで、利用登録者以外の乗車対応は難しい。気象条件によって部活動の実施は困難と判断した場合には、中止にする。

問③ 小学校の特別教室と体育館への空調設備を設置すべきではないか。

答③ 教育長 特別教室は使用頻度が低く設置要望はない。体育館は断熱性の面で問題があり、空調設備設置には費用もかかるので、必要性や活用率、活用方法等を見極めたい。



子どもがいっぱいの丸森町であってほしい (大張で開催された ほたるを観る会)



かなもり ひろゆき 議員
金森 裕之



一般質問動画

高齢者のより良い生活を

町長 安心する生活の実現を進める

問① 本町の高齢化率は令和6年5月末時点で44・7%と県内で2番目に高い。高齢者のひとり世帯や、高齢夫婦のみの世帯が増加している中で、社会からの孤立を防ぐために定期的な

令和7年には日本人口の約5人に1人が75歳以上の後期高齢者となり、労働力の減少、医療と介護そして社会保障の増加など、様々な課題に直面する。高齢者が安心して、生きがいを持って生活できる行政や、医療と福祉サービスの向上が喫緊の課題と捉え、町長に問う。

問② 日常生活に不安や悩みを抱える高齢者もいる。

支援が必要ではないか。
答① 高齢者が住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けられるまちづくりを目指し、各種サービスが一体的に提供する仕組みの地域包括ケアシステムの構築を掲げ、地域住民や介護サービス事業所等とともに課題を整理しながら、具体的な検討と取り組みを進めている。

また、町中心部の空き家を活用した入居等、安心して暮らせる体制づくりを進めるべきと思うがどうか。

答② 公営住宅法や条例に規定する要件を満たしていれば入居は可能だ。また、高齢者の希望に沿った物件を見つけては容易ではないが、住まいに関する情報提供を行っていく。



高齢者が安心して暮らせるよう入居要件の緩和を（神明北住宅）

問③ 高齢ドライバーによる交通事故が増加し、運転免許証の自主返納が進んでいない。返納者に対し更なる支援策の拡充を検討してはどうか。

答③ 公共交通機関の乗車券1万円分の支援事業や、阿武隈急行線の乗車券3割引の制度も実施している。今後、乗車券の種類の拡大や商品券の交付等検討していく。

事業承継支援の強化を

町長 支援の体制強化に取り組む

近年、中小企業においては経営者の高齢化や後継者不足等により、廃業が増加傾向にある。事業承継に取り組む、雇用や技術及び地域活力を維持していくとともに、地域産業をどう支えていくかが喫緊の課題となっている。

問① 町内には、老舗の商店や飲食店、旅館、さらには卓越した技能を有する伝統工芸職人等が存在している。しかし、熟練の職人や個人事業者は、これまで事業承継に向け、支援を受けて



これからも継承してほしい伝統技術（令和6年1月丸森小6年生 紙すき体験）

いないのが現状である。今後は、町が地域ニーズを掘り起こし、課題を認識したうえで事業承継支援に取り組むべきではないか。

答① 宮城県事業承継・引継ぎ支援センターや商工会、金融機関等との連携を深め、企業に対し事業承継支援の充実を図っていきたい。

問② 事業承継部門の地域おこし協力隊の募集や移住フェアで事業承継情報を提供し、移住定住につながるなど町の各事業と連動した取り組みはできないか。
答② 事業承継に関する情報を発信しながら、若い世代に町の取り組みが残るよう対策を進める。

問③ 町が地域の事業承継機関のハブとなるような自治体間連携の支援体制の構築に向け、小規模事業者等の事業承継支援を進めている東北経済産業局や、中小機構等との連携を図り、自治体モデル実証事業を展開してはどうか。

答③ 町内ニーズの把握や他の地域の取組事例等の情報収集と周知に努め、経営者の気付きを促すとともに、各種施策を横断的に進めながら自治体間連携事業承継支援の体制強化に取り組む。



ふなやま じゅんいち 議員
船山 俊一



一般質問動画



いたばし 板橋 議員



一般質問動画

消滅可能性町の対応策は

町長 総合戦略策定の中で対応

令和6年3月定例会で、限界集落の現状と地域再生について質問した。その後、消滅可能性自治体は東北地方で7割を超えるとされる人口戦略会議報告書が公表された。報告書では、30年後に20歳から39歳の若年女性人口が5割以上減ると推計され、将来は消滅する可能性が高いと判断された。2050年の県内自治体の推計人口によれば、丸森町の若年女性人口減少率が75・6%、若年女性人口188人とあり、県内ワースト1とある。以上を踏まえ町長に問う。

問② 合計特殊出生率※の全国平均は1・20で、東京都も過去最低の0・99である。本町の出生状況はどうか。
答② 令和元年は0・96、2年は1・02、3年は0・63、4年は0・94、5年は0・86である。出生数も令和元年は45人、2年は42人、3年は29人、4年は34人、5年は29人であった。



限界集落に希望の光

問① 2050年には町の総人口が4974人と推計されており、5000人を割ることだが、町長の所感と対応策は。
答① 人口減少は社会構造上の課題であると考えられる。令和7年度からスタートする総合計画に、改めて人口推計を行うとともに、特に若い女性を中心とした町民の考え方を計画策定に生かしていく。

問③ 町の人口移動状況は、直近5年間で平均360人減少している。自然動態で見ると死亡数を減らすのは難しいうえ、出生率の増加も厳しい現実がある。社会動態の転出人口を少しでも抑える努力が当面の策とと思うがどうか。
答③ これまでの施策の評価を行いながら、新たな視点を取り入れ、転出抑制に尽力したい。

※合計特殊出生率とは
一人の女性が一生の間
何人の子どもを産むかを表
した指標のこと。

農産加工品で就労場拡大を

町長 6次化を更に推進する

令和6年5月に開催した議会懇談会では、出席者から異口同音に人口減少問題があげられ、住民も町の将来に大きな不安を抱き、若者定住のための施策や雇用の場と就労の場の創設を求め意見や要望が出された。就労の場として期待される、農業を柱とする6次産業化の現状と推進について提言し、町長に問う。



小規模でも農産物加工の灯を消すな（梅干加工所）

問② 衛生管理の徹底と広域的食中毒の対策強化の観点から、平成30年6月に食品衛生法の改正があり、令和6年5月末をもって経過措置も終了した。これを機会に生産販売を中止する農家もあると聞く。これまで町はどのような支援をしてきたか。今後の支援の考えはあるか。
答② 漬物製造業等の許可制度への移行を見据え、法改正後から農業改良普及センター等と連携して対策を講じてきた。漬物製造業は33経営体から高齢を理由に廃業し、現在25経営体が許可を取得済みである。6次産業は今後も施設整備等の支援を推進する。



おおつき まさよし 議員



一般質問動画

路の拡大には限界がある。若者の新規参入を促し、生産額と販売額、利益拡大を目指す考えはあるか。
6次産業化の大規模化を提案する。次代の取り組み

についてどう考えるか。
答① 6次産業は徐々に拡大し、令和5年度は56経営体を取り組んでいるが、高齢者個人が多い。若者参入や雇用を生むた

めには、経営意欲と起業ノウハウを持つ人材の確保や食品製造企業の誘致等、大胆な施策展開が必要である。策定中の次期農業振興ビジョンに盛り込むよう検討する。

議会の要望に町長が回答しました

令和6年度予算審査を通じた議会要望への回答



法人経営に関する話し合い（農事組合法人羽入ファームまるもり）



傷んだ道路を修繕して安全確保（丸森雁歌付近）

要望 納税・使用料及びふるさと納税は貴重な自主財源である。積極的な情報発信と、収納対策に努めること。
回答 税等は、住民福祉の増進を図るため重要な財源である。全庁挙げての収納対策を引き続き実施していく。また、更なる収納率向上につながるよう各機関と連携を進めていく。

持続可能な農業振興
要望 集落営農や新規就農者等の担い手支援の強化と、災害復旧工事完了後の農家経営の安定化に取り組み、持続可能な農業振興を図ること。
回答 技術指導や経営ノウハウの助言等を行うと共に、復旧後の農地に適した作物の提案や営農相談で意欲の増進と経営の安定を図る。

中心市街地活性化
要望 観光振興計画に基づき斎理屋敷及び八雄館を核として、特色と魅力ある中心市街地の整備を推進し、地域活性化を図ること。
回答 歴史や伝統文化を活かして観光客を誘致し、斎理屋敷の魅力アップと、八雄館の建替えや表通りの無電柱化等を推進し、周辺地域の活性化を図る。

道路修繕で安全確保
要望 災害復旧に全力で取り組むと共に、復旧後の町民生活の安全確保のため、工事車両通行による道路損傷の調査と修繕を進めること。
回答 復旧工事は令和6年12月完成予定である。関係機関と情報共有を図り、道路損傷個所の修繕を進める。

学校復帰と学びの充実
要望 不登校児童生徒の心情を踏まえ、保護者や関係機関と協力しながら学校復帰に向けた支援と学びの充実に努めること。
回答 子どもの心のケアハウス等の利用を促して、学びの力を育み、主体的に学校復帰に向かうよう、関係機関と連携して支援や働きかけを行う。



大雨災害に備え真剣に訓練に取り組む水防団（令和6年7月7日）

消防団員の確保
要望 地域住民の生命財産を守るため、女性も含めた消防団員の確保に努め、防災・減災を図ること。
回答 機能別団員の導入により団員数は473人で充足率94・6%である。団員確保に向け定年延長を可能にする共に、班の統合、再編をして消防力の維持を図っていく。

交通手段の確保
要望 デマンドタクシーは、特に山間部と町中心部をつなぐ重要な交通手段である。利用者のニーズに合った公共交通整備に努めること。
回答 令和6年4月からAIを導入した運行を開始している。狭い道でも入れられるよう車両の見直し等利便性向上に努める。

渇水の対応
要望 水道未給水区域の水の枯渇は深刻な問題である。関係各課の連携した対策で町民の生活を支えること。
回答 未給水区域における水の渇水が発生した場合は、安心して生活ができるよう公共施設の水道の開放や自治組織、関係各課と連携・協力し対策を講じていく。

子育て定住の推進
要望 人口減少対策として、子育てのしやすい環境や移住しやすい環境を創出し、オール丸森で取り組むこと。
回答 子育て家庭の相談支援や、こども医療費助成等の経済的支援を継続する。移住体験や情報発信を継続し、定住のための住まいの紹介や、移住に係る経費の支援を行う。



水不足解消のため設置された簡易水道給水施設（大張由ヶ入地区）



和の心で人を育て

人生を豊かに

大内地区

佐藤 亮平 さん

精密金属部品機械加工業

正直力と想像力、継続力が大事と日々奮闘している、(株)佐藤製作所代表取締役社長、佐藤さんに話を伺いました。

Q どんな物を金属加工していますか。
A 自動車・電機機器・IT関連部品をダイカスト（ちゅうそつ 鋳造）し、製品加工しています。

Q 物価高、円安などで大変厳しい中、経営の工夫を教えてください。
A 価格転嫁は難しいので、加工から梱包までを一貫して行うことで、時間とコストを大幅に削減しています。

Q 社員の皆さんが意欲的に見えますが、その秘訣は。
A 社員への丁寧な教育や、子育てしやすいシフトや職場作りなど「何が出来ないかではなく、どうしたら出来るか」をモットーに、全員のモチベー

ションが上がるよう気を配り、社員との話し合いを大事にしています。

Q 会社として今後の目指す方向は。
A 高品質で高精度、多品種、小ロット対応、短納期を更にブラッシュアップし、他社に出来ない事に挑戦してオンリーワン工場を目指します。

Q 町や議会に要望はありますか。
A 当社は持続可能な社会を創る、環境省のエコアクション21の認証を取得しています。町内でも数社が取得していると思うので、積極的にPRしてほしいです。
また、企業が集う機会をつくるなど、まちづくりのアイデアを引き出す企画をしてほしいです。

（大槻 孝雄 委員）

次の議会は

9月3日(火) 午前10時
開会予定

- 日程が変更になる場合があります。後日、町議会ホームページで、改めてお知らせします。



問い合わせ先 議会事務局 ☎0224-72-3038

スマホで議会が見られます

本会議の映像をネットで
ライブ中継しています

- 一般質問は過去の録画映像を常に視聴できます。ぜひ議会だよりと一緒にご覧ください。



丸森町議会中継

検索

表紙のことば

大内地区の「たなはた七夕」という珍しい地名に、ある言い伝えが残っています。

昔、機織りが得意で働き者の姫様がいたそうです。天王川（現在の伊手川）の対岸に住んでいた牛飼いの殿方を婿に迎えたそうですが、二人とも働かず遊んでばかりになり、親たちが怒って、婿を実家に帰すことになりました。

しかし、娘の誕生日である7月7日の夜だけは会うことを許され、吹き流しやぼんぼりを作り、竹に下げ待ちわびたそうです。

二人を哀れみ、姫様が祀られたのが七夕神社。所在地は丸森町大内七夕77です。町内では、「ざつと昔話」として語り継がれています。
（中津川かおり 委員）

議会広報常任委員会

委員長	鈴木美智子
副委員長	山本 明徳
委員	八巻 眞由
	中津川かおり
	大槻 孝雄
	金森 裕之